

生物多様性戦略A班

野生児を育てよう ～まずは川を知ろう



A班の取り組みの概要



なぜ生物多様性で野生児なのか？

- 生きものと触れ合う体験、自然の中での体験を持つ人を育てる
- →子どもの体験の機会を増やすのが最も近道
- →体験が大事



五感に刺激を与える！

- 子どもの野生が目覚める場所＝
それは「水辺」
- 日野の自然を特徴づけるもの＝
それは「川」
- 生きものがたくさんいる場所＝
それは「川」
- 川で遊ぶ、生きものに触れる機会をつくる

そのために。。。

① きっかけ、呼び込みとして

1年目のあゆまつり、落ちアユ祭り大会

しかし、イベントで終わらせてしまっては野生児は育たない。
繰り返し川に来てほしい

②続ける【仕組み】を作ることが必要

- ・学校を巻き込むのはハードルが高い
- ・市民の自主グループ作りを促す
- ・自主活動を促す仕組みをつくる

その仕組みとは・・・

- 親子グループが休日などに集まって、川での体験ができるように呼びかけやサポート
- 初めは体験イベントを打つ
- 次には「川遊びグループをつくりませんか？」
- 「保険の手配OK、道具の貸し出しOK、指導者の紹介もします」と誘導
- 初めは企画を一緒に考える、仲間を誘ってもらう。

さらに……

- 学校や児童館の既存のグループにも声がけ
- アユ祭りでは、そのお誘いのチラシを配布する



スケジュールは・・・

・ 1年目

あゆまつり、落ちアユ祭りで体験イベントを実施
親子に声かけて、よびかけ。
できれば1, 2回ミニ体験会試行。

・ 2年目

親子グループと一緒に企画し、実地試行。
川遊びサークルを発足。支援の仕組みを試行。

・ 3年目

川遊びサークルを既存グループにも声かけて増殖。
支援の仕組みを確立。指導者の養成も。

みなさんも是非一緒にやりませんか？

野合世界

飲酒中！